

日野川水系大規模氾濫時のタイムライン 第2回検討会議事概要

日時：平成30年1月26日 13:30～16:30

場所：鳥取県西部総合事務所（2F）講堂

【出席者】

- ・出席者名簿参照

【議事概要】

進行：岩田副所長

1. 第1回検討会の振り返り（日野川河川事務所 大元事業対策官）

2. 検討会の進捗と位置づけについて

3. ワーキング（全体進行：パシフィックコンサルタンツ 飯田）

- ワーキングの進め方
- 重点行動項目の選定

機関別行動項目リストの第2階層から、他機関との連携を伴う行動項目を重点行動項目として選定（4つ程度）

- 行動項目の細分化・具体化

選定した重点行動項目について、第3階層（行動手段・内容がわかるレベル）に細分化・具体化

- 全体発表

各機関の重点行動項目について、「どのようなきっかけが必要となるか」、「行動を実施するために他機関とどのような連携が必要となるか」、「行動を実施する上での課題は何か」について、各機関より発表

- まとめ（全体進行より）

発表していただいた全機関の課題や意見はとりまとめて整理し、皆様にフィードバックする予定。

発表では、情報の収集が重要になるという点が多く聞かれた。行動のきっかけにしている情報の種別（台風情報、河川水位情報など）があり、また、それらは機関・施設によって基準や危険度、対応が変わってくる。“一通りが正解ではない”ということがわかった。このような点をふまえ、各機関の皆様にとって役に立つタイムラインに仕上げていくために次回以降も協力をお願いしたい。

4. 講評

- 鳥取大学 黒岩教授

本検討会では本来ならば3回では終わらない内容を実施しており、本日も短い時間の中で行動項目の第2階層から第3階層への細分化・具体化を実施していただいた。

各機関の発表から、市町村における避難所開設やそのタイミング、教育機関による休校の判断や保護者への連絡、消防・警察における避難誘導・支援のための市からの情報

収集、内水氾濫発生時などの国交省や県からの情報収集など、いずれもいかに住民を災害から守るか、いかに早めに避難してもらうか、そしてそのための情報収集や判断の難しさが伝えられた。

また、各機関に関わるライフラインの稼動・復旧情報や交通機関の運行情報、被害情報、これらの情報を発信するための通信状況の確保、また、錯綜する情報の信憑性など、情報収集・伝達に関する課題が多く出ていた。情報をどう収集し、どう伝達すべきか、ということが全体の課題として挙げられた。

今回の検討会で、タイムラインのベースとなるところが出てきた。各機関の重点行動項目に対する課題を抽出したことにより、それぞれの機関の発信する情報、求めている情報には全て繋がりがあることが分かった。

今回のアウトプットとして、各機関の繋がりがわかる図を描くことを事務局にお願いしたい。このような機関の繋がりを示すことで、タイムラインとそのレベル階層がより解り易く、次のステップとして「いつ」「誰が」「誰と」といった役割分担のイメージが付きやすいと思われる。

- 鳥取大学 梶川准教授

多数の機関から、情報収集というキーワードが挙げられ、特に要望として情報の一元化を望む声が多かった。鳥取県では情報を一元化したサイトがあることを紹介いただいたが、現時点でこのサイトが周知されていないこと（情報があるけれども、行き渡っていない状態）がひとつの課題と考えられる。

このように各機関で顔を合わせて各々の情報や課題を共有できたことに、今回の検討会の意義が感じられた。

また、日野川タイムラインは本検討会が作成のゴールではなく、訓練や出水時の運用を通して改善していくことが大切であり、このような集まりを継続していければいいと思う。

5. その他（日野川河川事務所 大元事業対策官）

- 今後のスケジュールについて

第3回検討会は3月27日（火）13:30～16:30を予定

内容：各行動について「いつ」「誰が」「誰と」「どのくらい時間がかかるのか」を検討

- 第3回検討会事前作業の依頼（詳細は後日改めてお知らせ）
- ワーキングに使用したシート類は終了後回収

— 以 上 —